

日蓮大聖人御書全集

ひょうえのさかんどのごへんじ

兵衛志殿御返事

きょうだいどうしん こと

（兄弟同心の事）

ひようえのさかんどのごへんじ きようだいどうしん こと

兵衛志殿御返事（兄弟同心の事）

こうあん ねん がつ にち さい いけがみむねなが

弘安3年（'80）11月12日 59歳 池上宗長

わ ほけきよう ほんじやくわごう りやく むりよう 顕 おのおの

我が法華経も本迹和合して利益を無量にあらわす。各々

ふたり ふたりどうしん おおごしよ こうのとの

二人、またかくのごとし。二人同心して大御所・守殿・

ほつけどう はちまんとう 造 たも ほけきよう

法華堂・八幡等、つくりまいらせ給うならば、これは法華経

ごりしよう たま ふたりいちどう ぎ くるま

の御利生とおもわせ給わざるべき。二人一同の儀は、車の

ふた 輪 とり ふた はね さいしとう

二つのわのごとし、鳥の二つの羽のごとし。たとい妻子等の

なか 違 たも ふたり おんなか ふわ おそ

中のたがわせ給うとも、二人の御中、不和なるべからず。恐

そちら にちれん 尊 思 合 たま なか

れ候えども、日蓮をたいとしとおもいあわせ給え。もし中

ふわ

たも

ふたり

みようが

不和にならせ給うならば、二人の冥加いかんがあるべかるら

おぼ

おのおの

めと思しめせ。あなかしこ、あなかしこ。各々みわきかたき

たま

ひとびと

うち

ろんい

きた

いつぼう

あいひし

もたせ給いたる人々なり。内より論出で来らば、鵜蚌の相扼

ぎよふ

恐

あ

なんみようほうれんげきよう

おんとな

ぐも漁夫のおそれ有るべし。南無妙法蓮華経と御唱え、

慎

きようきようきんげん

つつしむべし、つつしむべし。

恐々謹言。

じゅういちがつじゅうににち

にちれん

かおう

十一月十二日

日蓮

花押

兵

衛

さかんどのごへんじ

ひようえの志殿御返事